

神戸文学館企画展

蘇る神戸ゆかりの 文豪たち

- 其ノ肆 -

©2016 EXNOA LLC



北原白秋



橘井基次郎



織田作之助



菊池寛



三木露風



三好達治



檀一雄

神戸文学館 ×

文豪と
アルケミスト
鎌倉館

2025.4.26 Sat ~ 8.31 Sun 入館無料

神戸文学館

TEL・FAX 078-882-2028

【開館時間】平日 午前10時~午後6時/土・日・祝日 午前9時~午後5時

【休館日】毎週水曜日(祝日の場合は翌日) 〒657-0838神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)

【主催】神戸文学館

【協力】(一財)神戸観光局 大阪文学振興会 大妻女子大学図書館 おだわらデジタルミュージアム 霞城館・矢野勘治記念館 関西大学なにわ大阪研究センター

菊池寛記念館 北谷亭々 (公財)北原白秋生家記念財団 (公財)童謡の里龍野文化振興財団 合同会社EXNOA 神戸市文書館 国立国会図書館 檀一雄文学顕彰会 檀太郎 にしのみやデジタルアーカイブ 阪神大水害デジタルアーカイブ(敬称略)

蘇る神戸ゆかりの 文豪たち

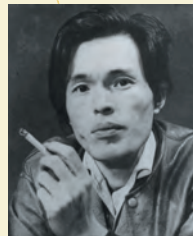
- 其ノ肆 -



北原 白秋(1885~1942)

象徴主義を近代詩に定着させた日本を代表する詩人、童謡作家、歌人、帝国芸術院会員。本名は北原隆吉。1909年の第1詩集『邪宗門』、11年の第2詩集『思ひ出』で、詩人としての地位を確立する。一方、作曲家山田耕筈とのコンビで童謡界に新風を吹き込み、「からたちの花」や「この道」など数多くの名曲を発表した。

写真(公財)北原白秋生家・記念財団



織田 作之助(1913~1947)

大阪下町の庶民生活を活写し、「オダサク」の愛称で親しまれた無頼派の作家。1939年、「俗臭」が芥川賞候補となり、翌40年に『夫婦善哉』が人気を集め本格的な作家生活に入る。終戦の翌年、46年には「世相」で売れっ子となった。同年12月、新聞連載小説「土曜夫人」を執筆中に咯血し、翌年1月に33歳で死去。



三木 露風(1889~1964)

北原白秋と並び称され「白露時代」を築いた詩人、童謡作家。本名は三木操。1905年、17歳で詩歌集『夏姫』を発表。09年刊行の抒情詩集『廃園』が、同じ年に出版された白秋の『邪宗門』とともに注目される。やがて象徴詩に転じ『寂しき曙』(1910年)を発表。山田耕筈が作曲した童謡の名曲「赤とんぼ」の作詞も担当した。

写真:霞城館・矢野勘治記念館



檀 一雄(1912~1976)

「最後の無頼派」作家で、文壇で食通として知られた。1936年、雑誌『文藝春秋』に出世作「花筐」を発表。50年、亡き妻を描いた連作「リツ子・その愛」「リツ子・その死」が高評を得る。51年『長恨歌』『真説石川五右衛門』の2作で直木賞受賞。執筆に20年以上を費やした『火宅の人』は、没後、日本文学賞などに輝いた。

写真:檀家蔵



梶井 基次郎(1901~1932)

無名のうちに夭折し、没後、評価され日本文学史に名を刻んだ作家。1924年、東京帝国大学英文科に入学。同人誌『青空』を立ち上げ、翌25年の創刊号に代表作となる「檸檬」を掲載。31年に初の作品集『檸檬』を刊行し、文壇が注目。32年1月『中央公論』新年号で「のんきな患者」を発表後、3月に肺結核のため31歳で死去。

写真:国立国会図書館「近代日本人の肖像」



菊池 寛(1888~1948)

小説家、劇作家、実業家など多面的な才能を発揮した文化人。1918年、雑誌『中央公論』に発表した「無名作家の日記」や「忠直卿行状記」で文壇での地位を確立。20年の新聞小説「真珠夫人」で人気作家となる。23年、文藝春秋社を興し、雑誌『文藝春秋』創刊。35年には芥川賞、直木賞など文学賞を創設、文壇の振興に尽力した。

写真:菊池寛記念館



三好 達治(1900~1964)

現代詩の抒情性を知的かつ純粋に表現して独自の世界を開いた詩人。芸術院会員。陸軍士官学校を中退後、1925年東京帝国大学仏文科に入学。梶井基次郎らの同人誌『青空』に参加。荻原朔太郎に傾倒し、30年刊行の第1詩集『測量船』で詩壇に認められる。53年には詩集『駱駝の瘤にまたがつて』で芸術院賞を受賞。

写真:国立国会図書館「近代日本人の肖像」

恒例となりましたDMM GAMES「文豪とアルケミスト」と神戸文学館が連携した企画展の第4弾「蘇る神戸ゆかりの文豪たち 其ノ肆」を開催します。

今回、取り上げる文豪は北原白秋、三木露風、梶井基次郎、三好達治、菊池寛、織田作之助、檀一雄の7人。神戸、阪神間における文豪たちの足跡を追い、作品、エピソードを紹介します。

神戸、阪神間の風土は、古くから文豪たちの心に響き、多くの作品を生み出しました。しかし、現在は活字離れなどで作品や、そのゆかりの地は、時代の流れの中で忘れ去られようとしています。

一方、文豪たちの名は、ネットゲームやアニメの世界でよみがえり、キャラクターとして若い層を中心に浸透しつつあります。今回も文学作品を守るため転生した「文豪」をキャラクターにした「文豪とアルケミスト」を通じて、来館者の皆様に文学の世界に誘います。ぜひ文豪たちが心を動かした神戸、阪神間の魅力の一端に触れてください。



『文豪とアルケミスト』とは

DMM GAMESにて配信中の文豪転生シミュレーションゲーム。文学書のページを黒く染めていく「本の中の世界を破壊する侵蝕者」に対抗するため、錬金術師は文学の力を知る文豪を転生させる。彼らは文学書を守るため、「侵蝕者」たちを

打ち破っていく。実在の文豪をキャラクターとして登場させるのが特徴。2016年11月にPCブラウザ版、翌17年6月にはアプリ版を配信し登録者数は、現在160万人を超えている。

神戸文学館

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)
【入館無料】 TEL・FAX 078-882-2028

■交通案内: 阪急電鉄: 王子公園駅から西へ約500m
JR: 灘駅から北西へ約600m
阪神電車: 岩屋駅から北西へ約800m
市バス: 王子動物園前から西へ約200m

■開館時間: 平日 午前10時~午後6時
土・日・祝日 午前9時~午後5時

■休館日: 毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

